

工学院大学主催  
第10回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ

文の部門 優秀賞

「地域 SHARE 空間」

静岡県立科学技術高等学校 望月杏華さん

## 地域 SHARE 空間

私の地域では若者の多くが都市へ行ってしまふ。お盆になり今年もたくさんの人、子供を見かけた。こんなに人が住んでいたら楽しそうだなと想像してしまつた。しかし“今”が大事だと思ひ、現状での日々の暮らしをもっと楽しくする空間づくりを提案する。地域付き合いが減り、関係が薄れている今、目に見える地域社会の場を作り小さなコミュニティから始まる地域のつながりを目指したい。

## 提案の背景

私の身近なところで頻繁に人が集まる空間というと、公民館が思いつく。おばあちゃんたちが家の玄関に集まり話しているのは見かけるが、公共の場で考えると公民館くらいしかない。公園では、道具の撤去や整備が行き届いていない現状から人がいる公園を見ることが減多になくなった。久しぶりに行って全体を見渡すと淋しい感じがした。ベンチはあるが使えない。苔が生え枯れ葉が乗り土で汚れて、役に立たない置物になっていた。数少ない遊具も蜘蛛の巣とさびが目立ち使われていない事実を強調しているように感じた。そこで公園と公民館をミックスし役割を兼ね備えた空間にしたら、人がもっと集まり地域の輪が生まれやすくなるのではないかと思った。身近から得たアイデアを提案する。

現在、地元の公民館は月に一度、町内自治会の集会・会議・講演、手芸の会合、老人会などに使われている。学生が学校に行っている昼や夜に行われることが多く65歳以上という条件があることもある。少子化の影響で子供会はなくなっている。公園はバイクでこの地に訪れた人の休憩場となったり、登山客でにぎわったりする。体育会系の大学、サークルの人たちが、テントを張って自炊しているところを見たことがある。

## 課題

公民館・使う用途・年齢が限られていて、若者や子供たちは縁がない場所となっている。

- ・閉まっていることが多い。
- ・ということが公民館で行われているかわからない。

公園・地元の人にあまり使われていない。

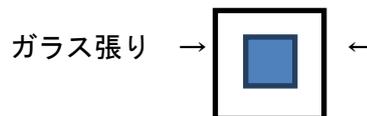
- ・整備が行き届いてなく訪れた人を不快にさせてしまうと思う。

## 提案

そこで“地域 SHARE 空間”を提案する。公民館の役割を果たす室内空間と公園の役割を果たす芝生広場をつくる。シンプルなつくりで、多用途に適する空間となる。また、敷地の再利用が可能で何百年も先の未来にも役立つことだろう。1部のターゲットに限定せず、親子、親戚でワイワイ、おじいちゃんおばあちゃんがゆったりと話してホッと一息つける、中高生が遊べるなど、どの年齢層でも関係なく地域全体の人が気軽に集まれる空間となる。

室内空間の真ん中に会議室を設ける。そこで話し合いができるよう長机とたくさんの椅子を用意する。高齢者が使うことが多いので小さな段差は作らないようにする。会議室を囲むように自由に使えるコミュニティスペースを設ける。通常は1階建てだが1つの案として都市部など、この施設の設置場所によって室内空間を2階建てにする。そうすれば、よりたくさん人が集まれる。会議室の2階は、例えば、足湯や楽器や歌の練習が思い切り

できる防音室、卓球台、防災グッズ置き場などとして活用する。費用や意見がまとまるのは大変なことだと思う。しかし、地域の人々の要求を受け入れ、地域ごとに2階の使い方の特徴があると面白くなりそうだった。それに雨の日でも友達同士で集まれる。コミュニティスペースには机を設置する。夏休みなどに子供たちが集まったり、宿題をやったり、外の芝生広場で遊んだあと親子で持ってきた昼食を食べたりできる。2面をガラス張りにし、もう2面にはたくさんの窓を設ける。中から外が見える構造だ。明るく開放感を感じられるとともに気持ちのいい風が入る。外の芝生空間では、朝のジョギングコースや子供たちの外遊び空間となるなど思い切り運動できる。フラッと立ち寄り目的を達成できる。



### 5つのメリット

#### ① 地域でのスポーツの機会を増やすこと。

体を動かすことは、健康、長生きに関係していて、充実、楽しさ、喜びの気持ちを味わうこともできる。運動神経だけでなく発想力やコミュニケーション能力も育てると聞いたことがある。芝生広場での外遊びにより、子供たちを大きく成長させる。今時の子供たちはゲームやスマホなど室内で遊ぶことが多く、遊ぶ空間や仲間の減少により外遊びをしなくなってきている。そのため体力の低下や肥満・生活習慣病の増加の傾向にあるらしい。少子化である今、この傾向に目を向けたほうがいいと思った。大人も健康づくり、生きがいづくりができる。

#### ② 地域のつながりを感じられること。

ラジオ体操・地域の運動会・小さなイベント会場となり地域付き合いができる。顔見知りであるだけでも安心できることもある。室内のコミュニティスペースでとなりに座ったら挨拶が生まれる。小さなコミュニティが生まれる。集まる空間、イベントがあると充実感が味わえ、孤独を感じることもなくなるだろう。1人暮らし、一人っ子は関係ない。

小さなイベントとは、集まった子供たちでドッチボール大会を開催するとか本当に小さなことで、花見に宴会やピクニックなど家族や地域のイベントになったり、夏に地域主催で広場に屋台を広げたり、四季を感じながら、自分と地域のつながりを感じられる場所となることだろう。また、地元で歓迎されている気にもなるし、地域のつながりが大きなものになると思う。使われる目的があるため、活気あふれる場所となる。

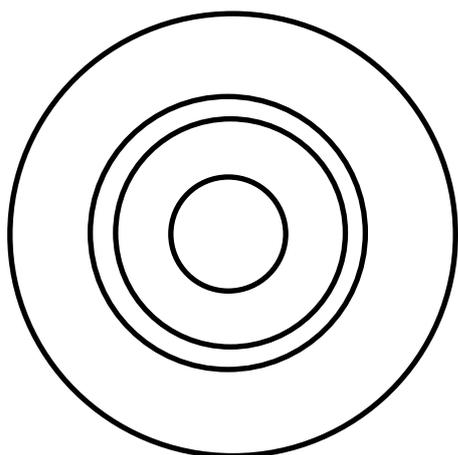
#### ③ 知り合いが増える。

空間を共有することにより顔見知りになり出会いの場となる。外遊びをする空間の共有で子供たちが集まると、遊び友達ができ、楽しくなって体を動かすことが多くなる。子供の親同士も相談しあえる友達になれるかもしれない。いいことが連鎖する。里帰り中の子供

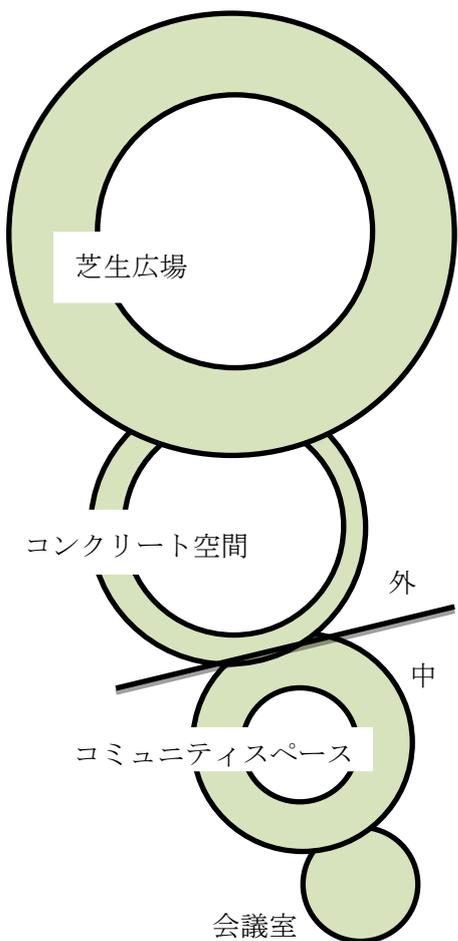
たちも遊びにくる。

他にも、公共の場でのマナーを身に着ける、友達とのつながりを作る場所となる。

### 全体図



配置位置を丸で示す。大きさ、形は表していない。



中高生と小学生や幼稚園児が逆側で遊んでいればボールが飛んでくるなどの危険性を回避できるし騒いでも気にしないで済む。親もヒヤヒヤせず安全でまた訪れたいくなる。

地域の運動会では建物の周りを走る。新鮮で面白いかもしれない。

靴の脱ぎ履きをするコンクリートの場。段差を感じず、特に子供たちや高齢者の方が転ばないように芝生の高さを決める。室内に履物入れを設置する。

この形のため、室内でも広場と同じようにプライバシーもある程度守れ、落ち着ける。

会議室のみ鍵をかけ自由に使えない。しかし会議室が真ん中にあることにより、地域でどんなことが行われているか目に見えて地域のための頑張りも周りの人に伝わりやすい。

この提案を実行するには施設の掃除など長く使われるために地域の協力が必要となる。主に地域の人向けの場所を提案したが、今まで通り訪れた人もいい思いで過ごせる。問題も出てくると思う。でもいいこともある。オープンな空間により365日使いたいときに使える。日常に入り込み利用されるこの空間は、地域での自分の居場所を感じられる場所となることだろう。そして地域関係を強いものに変えてくれるだろう。